

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

平成 26 年度

事業報告書及び決算書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日



EXPO'90  
FOUNDATION

## 目次

### 事業報告書

#### I. 事業

1. 顕彰事業	3
(1) コスモス国際賞	
(2) BIE コスモス賞	
(3) 全国花のまちづくりコンクール事業	
2. 助成・協働事業	5
(1) 調査研究、行催事等助成事業	
(2) 花とみどりの復興活動支援助成事業	
(3) 地域協働事業	
3. 普及啓発事業及び国際交流事業	8
(1) 次世代育成事業	
(2) 花育推進事業	
(3) 都市緑化推進運動等への協力事業	
(4) 普及啓発事業	
(5) 国際交流事業	
4. 調査研究・資料収集事業	14
(1) 生物多様性等に関する調査	
(2) 里山等の共生に関する調査	

#### II. 庶務・管理

1. 理事会・評議員会等	19
2. 内閣府届出及び情報公開	19
3. その他	20

### 決算書

#### III. 財務諸表

1. 貸借対照表	23
2. 損益計算書（正味財産増減計算書）	25
3. 附属明細書	34
4. 財産目録	35

IV. 監査報告書	39
-----------	----

平成 26 年度

# I. 事 業

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

## はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し、発展させることを事業の基本方針として花の万博記念基金を活用し、年次事業計画書に沿って各種事業を行っている。

協会は、平成 25 年 3 月 18 日に内閣総理大臣より公益財団法人の認定を受け、同年 4 月 1 日に「公益財団法人」に移行した。平成 26 年度は、超長期の債権が償還を迎えたが、為替相場が円安に推移したこと等により予算を上回る収入を得られた中、公益法人移行 2 年目として、協会の中心的事業である「コスモス国際賞」の実施をはじめ、顕彰事業、助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業を滞りなく行った。

## I. 事業

### 1. 顕彰事業

#### (1) コスモス国際賞

花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の 2014 年（第 22 回）受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施した。

また、2015 年（第 23 回）の受賞候補者の推薦を国内外の推薦人に依頼するため、推薦状を発送した。

#### ア. 受賞者の選考等

コスモス賞委員会（以下「賞委員会」という。）及びコスモス賞選考専門委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し、次の選考作業を行った。

##### (ア) 2014 年（第 22 回）受賞者の選考等

- ・平成 26 年 5 月 20 日及び 6 月 5 日に第 1 回、第 2 回選考委員会が開催され、2014 年受賞者選考対象 123 件の推薦に基づき、慎重な選考作業が実施された。
- ・平成 26 年 7 月 3 日に第 3 回選考委員会及び第 1 回賞委員会が開催され、2014 年受賞候補者にフィリップ・デスコラ博士(フランス、コレージュ・ド・フランス教授)が選定された。
- ・選考の経緯及び結果は、平成 26 年 7 月 29 日開催の第 83 回理事会に推挙され、受賞者として決定した。また、7 月 31 日、国内外の報道機関に対して記者発表を実施した。

##### (イ) 2015 年（第 23 回）受賞者の選考準備等

- ・平成 27 年 1 月 16 日に第 2 回賞委員会が開催され、2015 年（第 23 回）受賞者の受賞者選考に対して選考方針及び今後の日程等について審議された。
- ・国内外約 1,100 名の推薦人に対し、受賞候補者の推薦依頼を行った。

イ. 2014年（第22回）コスモス賞授賞式及び晩餐会の開催

国内外からの賓客及び招待者約400名の参列のもと、授賞式を開催するとともに、デスコラ博士を囲み、賞委員会・協会関係者による晩餐会を行った。

(ア) 授賞式

日 時： 平成26年10月30日（木）午後3時～5時

場 所： いずみホール〔大阪市中央区〕

出席者： 約400名

(イ) 受賞記念晩餐会

日 時： 平成26年10月30日（木）午後5時30分～7時

場 所： ホテルニューオータニ大阪〔大阪市中央区〕

出席者： 約20名

ウ. コスモス国際賞受賞記念講演会の開催

2014年受賞者フィリップ・デスコラ博士による講演会を大阪・東京で開催した。（詳細別表1のとおり）

（別表1）

		東 京	大 阪
日 時		平成26年10月27日（月）午後4時～6時	平成26年10月29日（水）午後4時～6時
場 所		東京大学 伊藤謝恩ホール〔東京都文京区〕	大丸心斎橋劇場〔大阪市中央区〕
講 演	テーマ	「世界の再構成にむけて」	
	講 師	2014年（第22回）コスモス国際賞受賞者フィリップ・デスコラ博士 （コレージュ・ド・フランス教授）	
次第等		受賞者紹介 武内和彦 （コスモス国際賞選考専門委員会委員長、東京大学ナステイビリティ学連携研究機構長・教授）  対談、 フィリップ・デスコラ博士 秋道 智彌 （総合地球環境学研究所名誉教授、コスモス国際賞選考専門委員会委員）	受賞者紹介 秋道 智彌 （総合地球環境学研究所名誉教授、コスモス国際賞選考専門委員会委員）  対談 フィリップ・デスコラ博士 池谷 和信 （国立民族学博物館民族文化研究部教授）
参加者		約350名	約200名
共 催		東京都教育委員会	—
後 援		農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省 大阪府（大阪開催）、大阪市（大阪開催）	

## (2) BIE コスモス賞

協会の存在及びコスモス賞の国際的なPRのため、参画、支援している BIE(博覧会国際事務局(本部パリ))が行う「BIE コスモス賞」について、平成 26 年度は、2015 年ミラノ万博における第 4 回 BIE コスモス賞の実施方法等を BIE 及びミラノ万博協会と協議、決定した。

## (3) 全国花のまちづくりコンクール事業

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、第 24 回(2014 年)花のまちづくりコンクールを実施した。

応募数：2,160 件

入賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各 2 点をはじめ 25 点

表彰式：開催日 平成 26 年 10 月 24 日(金)

場 所 法曹会館(東京都千代田区)

## 2. 助成・協働事業

### (1) 調査研究、行催事等助成事業

花の万博の理念の継承、発展又は普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援する助成事業を次のとおり実施した。

ア. 平成 26 年度は、平成 25 年度に決定した 20 団体(詳細は別表 2 のとおり)に対し助成を行うと共に、平成 27 年度の助成公募等を行った。

イ. 助成事業審査委員会を設け、応募のあった助成対象団体の審査を行った。

(ア) 公募及び審査

公募期間：平成 26 年 8 月 1 日(金)～9 月 17 日(水)

応募総数：101 件

審査期間：平成 26 年 10 月～12 月

(イ) 助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果は理事長に答申され、平成 27 年 3 月 30 日(月)開催の第 84 回理事会において平成 27 年度の助成対象 24 件を決定した。

(別表 2)

	助成事業名	助成団体名
調 査 研 究 開 発	日本産シダ植物分布状況変遷のモニタリング調査	日本シダの会
	ブナ林の維持・再生に係るブナ個体の生育条件の研究	日光植物園生態学チーム
	絶滅危惧種ナガバノモウセンゴケ保全に必要な環境解明	道北の湿原保全グループ
	地方博物館の資料を活かした中生代植物化石図鑑制作	中生代植物研究会
	本州中部の希少地形に成立する群落の保全生態学的研究	信大自然史研究会

	事業名	団体名
調査研究開発	ランドスケープ遺産インベントリー作成事業	公益社団法人日本造園学会
	アキアカネの生育数・行動圏についての市民参加型調査	琵琶湖博物館フィールドレポーター
	番所山(南方熊楠の森)自然調査事業	公益財団法人南方熊楠記念館
	都市部に残された水田環境の植物調査及び普及啓発	特定非営利活動法人大阪自然史センター
	大隅諸島の移入シカ管理と生物相保全のための基礎研究	薩南ニホンジカ調査研究ネットワーク
	複色花西洋椿品種成立に関与した久留米椿の調査研究	九州大学園芸学研究室ツバキ研究会
活動・行啓事	福島っ子応援みどりの宅配便 平成 26 年度推進事業	公益財団法人福島県都市公園・緑化協会
	久宝寺緑地ヒーリングガーデナー養成講座	久宝寺緑地ヒーリングガーデナークラブ
	かめおか里山里道トレイルの活用—植物回廊図鑑—	かめおか里道里山探検倶楽部
	「かんべの里周辺における里山の環境をよみがえらせる事業」	バイオマス総合研究センター
	花の文化園中心に近隣地域の児童・生徒対象の花育事業	NPO 法人フルル花と福祉の地域応援ネット
	仮設住宅住民との協働によるコミュニティガーデン活動	東京農業大学教育後援会
	桜の園広報事業	鎮守の森の会
	郡山城跡の桜を後世に引き継ぐ市民プロジェクト	郡山城跡・桜守の会
シンポジウムの開催と岩手県山田町における植樹事業	NPO 法人社叢学会	

#### ウ. 助成事業成果発表会等の開催

過去の助成団体の中から 5 団体が事業内容やその成果についての発表を行い、併せて「地球は大きな貯金箱」～次世代のために残したいこと～と題して、ジョン・ギヤスライト氏（ツリークライミングジャパン代表・中部大学教授）による講演会と、団体と参加者による交流会を開催した。

日 時：平成 26 年 9 月 13 日（土）午後 1 時～ 7 時

場 所：日本大学三島駅北口校舎・国際関係学部山田顕義ホール

参加者：約 200 名

共 催：NPO 法人グラウンドワーク三島、ガーデンシティみしま推進会

協 力：静岡県三島市

後 援：農林水産省、国土交通省、静岡県ほか 5 団体

#### (2) 花とみどりの復興活動支援助成事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動団体の選定及び支援金の提供を行った。

#### ア. 公募及び審査

公募期間：平成 26 年 4 月 1 日（火）～平成 27 年 3 月 31 日（火）

審査期間：平成 26 年 5 月～平成 27 年 3 月

イ. 活動団体の決定

復興活動支援事業審査会を設け、支援団体7件を決定した。(詳細別表3のとおり)

支援総額：1,700,000円

(別表3)

団体名	内容
特定非営利活動法人スマイルシード	防災を意識した「雑木の森の公園」整備
NPO法人ガーデンを考える会	花苗等による被災地小学校の支援
NPO法人Green Fields	沿道花壇「フラワーロード」の花壇整備
特定非営利活動法人 光と風	「心の癒しのガーデンづくり」を通じた復旧・復興まちづくり
NPO法人勿来まちづくりサポートセンター	被災者等のストレス解消等を目的とした植樹活動
大槌町花と夢いっぱいプロジェクト	国道沿いの花壇の整美活動
Team 隊長	大槌町ハマギク復活プロジェクト

(3) 地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働し、緑化や花飾り等の事業を次のとおり実施した。

また、過年度に大阪府内で実施した協働事業のうち、特に協会の理念継承に資する事業や特に効果の高かった事業について、対象を全国に広げて実施した。

ア. 歴史の道 みどりの拠点づくり事業

地元住民団体や地方自治体と協働し、旧街道など歴史のある道沿いに、緑あふれる空間を創造することにより、人間にも自然にも魅力的な環境づくりを目指すものであり、5か所で実施した。

(詳細別表4-1のとおり)

(別表4-1)

	応募団体	所在地	事業概要
歴史の道 みどりの 拠点づくり 事業	篠山市	兵庫県篠山市	武家屋敷が建ち並ぶ御徒士町通りに地元自治体と連携してみどりの拠点を整備
	葛城市観光協会	奈良県葛城市	竹内街道・横大路の魅力を高めるため「緑の一里塚」を整備
	能勢町	大阪府豊能郡能勢町	能勢街道と亀山路の来栖交差点においてみどりの拠点を整備
	能勢町	大阪府豊能郡能勢町	能勢街道沿いの道の駅「くりの郷」敷地内にみどりの拠点を整備
	河内長野市	大阪府河内長野市	高野街道沿いの三日月町駅前にて石灯籠を移設して新しいみどりの拠点を整備

イ. 子どもたちと育てる花とみどりによるコミュニティづくり事業

小中学校や地元団体と協働し、子どもたちが育てた花の苗などを通して、人々の結びつきや地域の結束力を固めることで、地域コミュニティの向上を図るとともに都市緑化を推進することを目的として実施したもので、6カ所の校区で実施した。（詳細別表4-2のとおり）

(別表4-2)

	応募団体	所在地	活動内容
子どもたちと育てる花とみどりによる コミュニティづくり事業	安朱小学校中庭整備委員会	京都市 伏見区	学校内の花時計や中庭の整備、近隣の公共施設への花苗の配付
	周山街道花降る里まつり実行委員会	京都市 右京区	周山中学校の生徒会活動として、地域の活性化や祭りの盛り上げ等への花苗の活用
	登美ヶ丘中学校	奈良市 登美ヶ丘	学校内の花壇整備や地域の公共施設に花苗を配付することにより、花があふれる地域づくりに貢献
	大安寺西小学校	奈良市 大安寺西	学校内の花壇整備や近隣の幼稚園、河川沿いへの花の配付
	東淡路・柴島地域活動協議会	大阪市 東淀川区	東淡路小学校内の花壇整備や地域の公共施設に花苗を配付することにより、花いっぱいのみちづくりに貢献
	鷺洲小学校花とみどりの実行委員会	大阪市 福島区	鷺洲小学校内の花壇整備や地域の公共施設に花苗を配付することにより、花いっぱいのみちづくりに貢献

ウ. 花博みどりの東北支援事業

(株) 阪急阪神ホテルズからの寄附を受け、東日本大震災の被害が大きかった岩手・宮城・福島県の3県において、地元自治体やNPOなどと協働し、緑化を中心とした植樹・植栽活動等の「花博みどりの東北支援事業」を実施した。（詳細別表5のとおり）

(別表5)

応募団体	所在地	事業概要
大槌鹿子踊 「神の森どろのきプロジェクト」	岩手県上閉伊郡大槌町	伝統の鹿子踊の衣装に使用するドロノキの苗木を植林
白石市	宮城県白石市緑が丘町	震災で崩落した緑が丘公園内のサクラと白ツツジの園を復活めざし植樹
逢瀬河内さくらの会	福島県郡山市逢瀬町	震災で避難してきた児童も参加し、「さくらの里」を目指して逢瀬川沿いにサクラを植樹
いわき市四倉地区緑化推進委員会	福島県いわき市四倉町	地域の復興に向け、桜の園をめざし、サクラの植樹を実施

エ. みどりの風フォーラム

花の万博理念の浸透を図ることを目的とし、都市部における緑化やヒートアイランド現象の緩和という課題に対し、最前線の情報や活動内容を発信する「第3回みどりの風フォーラム」

を開催し、大阪における緑化の取り組みを振り返り、今後の緑化の方向性についての展望を議論した。

テーマ：大阪のみどりは如何にあるべきか

日時：平成27年3月2日（月）午後1時30分～午後5時30分

場所：大丸心齋橋劇場（大阪市中央区）

参加者：約250名

協力：毎日新聞大阪本社

後援：農林水産省、国土交通省、大阪府、大阪市

#### オ. みどりの交流広場

みどりの風・生き物の道の浸透・推進に伴う植樹運動や、地域での緑化活動、ビオトープづくりといった環境創出や保護、農とライフスタイルとの新しい関わり方、ランドスケープ等の分野において活動している市民、企業、団体等の発表の場を設けることにより、情報の共有や協働のネットワークを促進させ、共生の輪を広げることを目的とした「第3回みどりの交流広場」を開催した。

日時：平成27年2月15日（日）午後1時～午後5時30分

場所：花博記念ホール（大阪市鶴見区）

参加団体：20団体

参加者：約100名

後援：大阪府、大阪市

### 3. 普及啓発事業及び国際交流事業

#### (1) 次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、児童を対象に平成6年度から開催しているもので、平成26年度は、屋外での自然観察（フィールド型）セミナー、講師派遣型セミナーを実施した。

また、次世代育成とマスコミとの連携強化のため、毎日新聞大阪本社との共催による小・中学校生態園づくりを実施した。

#### ア. 自然観察教室

テーマ：「集まれ！生き物好きな子供たち」

開催日：平成26年8月11日（月）～12日（火）

場所：兵庫県立奥猪名健康の郷（兵庫県川辺郡猪名川町）

講師：久留飛克明（箕面公園昆虫館館長）

澤田 義弘（箕面公園昆虫館スタッフ）

参加者：近畿圏の小学校4～6年生及び中学校1年生22名

#### イ. 講師派遣型セミナー（小学校講師派遣）

小学校への出張授業 12 件実施した。(詳細別表 6 のとおり)

(別表 6)

日 時	学校名・参加者	テーマ	講 師
平成 26 年 6 月 18 日(水) 13:35～14:35	大阪市立梅南小学校(大阪市西成区) 6 年生 35 名	昆虫や小動物の生態	谷 幸三 (一社)淡水生物研究所理事
平成 26 年 6 月 18 日(水) 11:40～12:25	大阪市立長橋小学校(大阪市西成区) 1 年生 27 名	動物の不思議	長瀬 健二郎 (元天王寺動物園園長)
平成 26 年 6 月 20 日(金) 13:45～14:30	大阪市立長橋小学校(大阪市西成区) 2 年生 31 名	水中生物の不思議	今福道夫 (京都大学名誉教授)
平成 26 年 6 月 25 日(水) 10:35～11:20	私立金剛学園小学校(大阪市住之江区) 4-6 年生 62 名	自然・生命の不思議について	佐藤洋一郎 (京都産業大学教授)
平成 26 年 8 月 30 日(月) 10:45～11:30	能勢町立田尻小学校(豊能郡能勢町) 4～6 年生 17 名	「自然・生命の不思議」について	長瀬健二郎 (元天王寺動物園園長)
平成 26 年 7 月 1 日(火) 10:50～11:35	大阪市立瓜破小学校(大阪市平野区) 4 年生 72 名	「生命・自然」について	佐藤 洋一郎 (京都産業大学教授)
平成 26 年 7 月 9 日(水) 10:50～11:35	大阪市立吉野小学校(大阪市福島区) 6 年生 70 名	食物連鎖について	佐藤 洋一郎 (京都産業大学教授)
平成 26 年 7 月 14 日(月) 10:40～11:25	吹田市立佐井寺小学校(吹田市佐井寺) 2 年生 106 名	「自然・生命の不思議」について	長瀬健二郎 (元天王寺動物園園長)
平成 26 年 9 月 17 日(水) 10:50～11:35	堺市立三国丘小学校(堺市堺区) 3 年生 97 名	昆虫について	谷 幸三 (一社)淡水生物研究所理事
平成 26 年 9 月 30 日(火) 10:45～11:45	河内長野市立南花台小学校(河内長野市南花台) 3 年生 59 名	身近な生き物	谷幸三 (一社)淡水生物研究所理事
平成 27 年 1 月 19 日(月) 10:50～11:35	大阪市立波除小学校 (大阪市港区) 2 年生 119 名	動物の命について	長瀬健二郎 (元天王寺動物園園長)
平成 27 年 2 月 18 日(水) 10:50～11:35	大阪市立森ノ宮小学校(大阪市城東区) 3.4 年生 32 名	昆虫関係	谷幸三 (一社)淡水生物研究所理事

ウ. 毎日新聞社との共催「小・中学校における生態園づくり」(プレスネットワークの構築)

生態園を 4 校に設置(詳細別表 7 のとおり)し、生物の観察の様子を毎日新聞紙面や毎日新聞

ホームページで紹介した。

(別表7)

実施校	所在地	実施内容
大阪市立北田辺小学校	大阪府大阪市	北田辺小 水と緑のオアシス、生き物とのふれあいの径整備 (ビオトープ池とバタフライガーデン等の整備)
箕面市立止々呂美小・中学校	大阪府箕面市	木材再生復活プロジェクト「とどろみの森」づくり
神戸市立駒ヶ林小学校	兵庫県神戸市	「ふれあいビオトープでシャベリーノ」 (バタフライガーデン整備とビオトープ池の改修)
綾部市立中筋小学校	京都府綾部市	「あい Love 中筋」～「あい」育み園 (バタフライガーデン、田んぼ、畑、ビオトープ池等の整備)

## (2) 花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等の実施などの事業を行った。

## (3) 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間 (4～6 月)」および「都市緑化月間 (10 月)」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力するとともに、協会事業の紹介パネル等を展示した。

## (4) 普及啓発事業

花の万博を開催した地元において、基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施した。

### ア. 大阪都市緑化フェア 2014

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画し、支援した。

また、会場内の出展ブースに協会の事業紹介パネルの展示を行った。

開催日：平成 26 年 10 月 26 日 (日)

場 所：大仙公園 (大阪府堺市)

来場者：約 3,000 名

主 催：当協会、大阪府、(公財)堺市公園協会

### イ. はならんまん 2014

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に支援した。

開催日：平成 26 年 11 月 15 日 (土)・16 日 (日)

場 所：大阪市長居植物園（大阪市東住吉区）

来場者：約 19,000 名

主 催：当協会、大阪市

ウ. みどりのまちづくり賞の表彰

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第4回みどりのまちづくり賞に参画し、会長賞を授与した。

主 催：当協会、大阪府、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

エ. 公園利用促進広報事業（情報誌オアフの発行）

花と緑の拠点である公園、緑地の利用の促進のため、公園情報や当協会の紹介を盛り込んだ、情報誌「オアフ」第5号・6号（各3万5千部、計7万部）を産経新聞社と協働して作成、配布するとともに、バックナンバーを含む同誌の「電子版」を作成し、協会ホームページに掲載して全国に発信した。

オ. その他

（ア）広報・報道活動

- ・コスモス国際賞の新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付したほか、2014年（第22回）受賞者の業績、コスモス賞の趣意、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書（変形A4判 82頁）を作成（1,500部）し、国内外の関係者に配付した。また、各事業の周知のため、各種チラシ、パンフレット、報告書等を作成し、配布した他、事業毎に東京・大阪の記者クラブに資料を提供し、マス・コミキャラバンを実施した。
- ・環境への理解を深め、理念の普及に資する小冊子「御堂筋いちょう並木マップ」と「みどりって？」の制作及び配布を他の団体と協力して実施した。
- ・各事業の理解促進・普及のために協会ホームページを適宜更新するとともに、ソーシャルネットワーク（facebook）でも積極的に事業紹介を行った。

（イ）情報等の提供、その他普及啓発

- ・今後開催が予定されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会のノウハウや情報等の提供を行った。  
海外、国、地方自治体—6件、企業及び個人等—14件
- ・各種行催事等に協賛・後援・会長賞の交付を行った。（詳細別表8のとおり）

(別表 8)

催事名 (開催時期)	開催場所	主催	名義
第 16 回「国際バラとガーデニングショウ」 (H26. 5. 10～5. 16)	西武ドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニング ショウ組織委員会	後援
第 11 回 2014 周防町通り「はなまつり」 (H26. 5. 12～5. 18)	周防町通りと大阪市立南小 学校 (大阪市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り 商店会	後援
大阪ばら祭 2014 (H26. 5. 16～5. 18)	花博記念公園鶴見緑地咲く やこの花館 (大阪市鶴見区)	(一財) 大阪スポーツみ どり財団	後援 会長賞
2014 年国際生物多様性の日シンポジウム「つ ながりと個性を活かした自然と共生する島づ くり」(H26. 5. 22)	国連大学本部エリザベス・ ローズ会議場(東京都渋谷 区)	国連大学 サステイナビ リティ高等研究所	後援
平成 26 年度大阪府立花の文化園幼児・小中学 生花の絵画展 (H27. 1. 6～2. 1)	大阪府立花の文化園 (フル ルガーデン) イベントホー ル (大阪府河内長野市)	(一財) 大阪府みどり公 社	後援 会長賞
水都おおさか森林の市 2014 (H26. 10. 5)	近畿中国森林管理局・毛馬 桜ノ宮公園周辺 (大阪市北 区)	水都おおさか森林づく り・木づかい実行委員会	後援
平成 26 年度「都市緑化月間」 (H26. 10. 1～10. 31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛
2015 日本フラワー&ガーデンショー (H27. 4. 10～4. 12)	幕張メッセ 9 番ホール (千 葉市美浜区)	(公社) 日本家庭園芸普及 協会	協賛
公開造園フォーラム (H26. 9. 28)	ホテル阪急インターナシヨ ナル 4 階 (大阪市北区)	阪神造園建設業協同組合	後援
フラワーアートミュージアム 2014 (H26. 10. 1～10. 15)	JR 大阪駅 (大阪市北区)	大阪ターミナルビル(株)	後援
第 69 回日本おもと名品展 (H26. 11. 22～11. 23)	掛川市生涯学習センター(静岡 県掛川市)	(公社) 日本おもと協会	後援 会長賞
「TOKYO GREEN2020」推進会議キックオフ・フ ォーラム (H26. 11. 25)	明治大学リバティータワー 1F (東京都千代田区)	(一社) ランドスケープコ ンサルタンツ協会	後援

第23回春雅展 (H27. 3. 27～3. 29)	花博記念公園鶴見緑地ハナミズキホール (大阪市鶴見区)	(公社)全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
「生きている化石・メタセコイアの系譜：都市創造性と社会デザイン」 (H26. 11. 21)	大阪市立大学理学部附属植物園・研究棟会議室 (大阪府交野市)	大阪市立大学都市研究プラザ	後援
街路樹研修会 (H27. 1. 30)	大阪歴史博物館 4F 講堂 (大阪市中央区)	(特非) おおさか緑と樹木の診断協会	後援
淡路花博 2015 花みどりフェア 国際シンポジウム「パークマネジメントの未来」(H27. 5. 14～5. 17)	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場ほか (兵庫県淡路市)	国際シンポジウム「パークマネジメントの未来」 実行委員会事務局	後援
シンポジウム「万博記念公園の価値とその創造」(H27. 3. 17)	ホテル阪急エキスポパーク 本館2階月光 (大阪府吹田市)	万博記念公園の明日を考える会事務局	後援

#### (5) 国際交流事業

大阪市立大学と共催し、国際学術シンポジウム（第5回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」）を開催した。

テーマ：包摂型創造都市と文化多様性

日 時：平成26年7月22日（月）～ 24日（水）

場 所：大阪国際交流会館（大阪市中央区）、鶴見緑地（大阪市鶴見区）、大阪市大付属植物園（大阪府交野市）

参加者：約400名

共 催：大阪市立大学

#### 4. 調査研究・資料収集事業

##### (1) 生物多様性に関する調査

平成26年度は、生物多様性保全に向けた当協会の新たな事業展開を探るため、日本の固有植物や希少となった在来植物の研究や保全に関わっている研究者による懇談会を開催し、当協会の貢献等について検討した。

##### 【メンバー】

岩槻 邦男（東京大学名誉教授）

奥山 雄大（国立科学博物館 筑波実験植物園研究員）

倉重 祐二（新潟県立植物園副園長）

田淵 俊人（玉川大学農学部生物資源学科 教授）

西廣 淳（東邦大学理学部生命圏環境科学科 准教授）

**【懇談会開催状況】**

- |     |                |               |
|-----|----------------|---------------|
| 第1回 | 平成26年10月8日(水)  | 大阪コロナホテル      |
| 第2回 | 平成26年12月10日(水) | 日本工業倶楽部会館     |
| 第3回 | 平成27年2月20日(金)  | フクラシア東京ステーション |

**(2) 里山における共生に関する調査**

京都大学フィールド科学教育研究センターの協力を得て、兵庫県南あわじ市と和歌山県田辺市において「里山文化」に係る調査を行い、東日本大震災被災地域における里山等の環境や文化の再生等復興に役立てるための報告書を取りまとめた。

平成 26 年度

## Ⅱ. 庶務・管理

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

## II. 庶務・管理

### 1. 理事会、評議員会等

#### (1) 第 82 回理事会 平成 26 年 6 月 6 日(金)

開催場所：日本工業倶楽部会館（東京都千代田区）

決議事項：平成 25 年度事業報告及び収支決算について、定時評議員会の招集について

出席等：決議に必要な出席理事の数 5 名、出席 7 名、欠席 1 名、監事出席 2 名

#### (2) 第 83 回理事会 平成 26 年 7 月 29 日(火)

開催場所：日本工業倶楽部会館（東京都千代田区）

決議事項：2014 年（第 22 回）コスモス国際賞の受賞者決定について、特定資産取崩しについて

出席等：決議に必要な出席理事の数 5 名、出席 5 名、欠席 3 名、監事出席 1 名

#### (3) 第 84 回理事会 平成 27 年 3 月 30 日(月)

開催場所：日本工業倶楽部会館（東京都千代田区）

決議事項：平成 26 年度収支予算の補正について、平成 27 年度資産運用方針書について、平成 27 年度事業計画及び収支予算について、平成 27 年度助成団体の決定について、役員報酬について、資産運用管理委員会規程の改正について、情報公開規程の制定について、顧問参与の選任について、コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について

出席等：決議に必要な出席理事の数 5 名、出席 6 名、欠席 2 名。監事出席 2 名

#### (4) 第 43 回評議員会 平成 26 年 6 月 24 日(火)

開催場所：関西文化サロン（大阪市北区）

決議事項：平成 25 年度事業報告及び収支決算書類の承認について

出席等：決議に必要な出席評議員の数 7 名、出席 10 名、欠席 3 名。監事出席なし、理事 2 名。

#### (5) 第 44 回評議員会 平成 26 年 9 月 1 日（月）

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

出席等：提案書に対し、評議員 13 名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、評議員会の決議があったものとみなされた。

### 2. 内閣府届出及び情報公開

平成 26 年 6 月に開催した理事会、評議員会における平成 25 年度事業報告及び収支決算、平成 27 年 3 月に開催した理事会における平成 27 年度事業計画及び収支予算について、それぞれ、内閣府に届出を行うと共に、平成 26 年 9 月には事業の変更届出を行った。

また、定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会ホームページにも掲載し、情報公開に努めた。

### 3. その他

公益法人移行の2年度目として、諸規程等を整備した。

また、第3者委員会として資産運用管理委員会を引き続き開催し、資産運用の業務状況を調査・確認し、代表理事に対して報告を行った。

協会組織は、代表理事2名、業務執行理事1名の体制のもと、2部3課制13名とした。

平成 26 年度

### Ⅲ. 財 務 諸 表

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

# 貸借対照表

平成27年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	183,546,087	167,388,710	16,157,377
未収収益	71,048,486	114,566,182	△43,517,696
前払金	0	72,000	△72,000
流動資産合計	254,594,573	282,026,892	△27,432,319
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産普通預金	22,000,000	0	22,000,000
基本財産定期預金	838,344,700	358,344,700	480,000,000
基本財産投資有価証券	29,655,300	509,655,300	△480,000,000
基本財産合計	890,000,000	868,000,000	22,000,000
(2) 特定資産			
記念基金	9,727,462,238	9,170,944,100	556,518,138
退職給付引当資産	50,795,900	46,838,100	3,957,800
東北復興支援事業資産	0	10,000,000	△10,000,000
特定資産合計	9,778,258,138	9,227,782,200	550,475,938
(3) その他固定資産			
投資有価証券	16,858,313	20,508,358	△3,650,045
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	16,858,321	20,508,366	△3,650,045
固定資産合計	10,685,116,459	10,116,290,566	568,825,893
資産合計	10,939,711,032	10,398,317,458	541,393,574
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	44,159,245	41,492,028	2,667,217
預り金	596,499	716,682	△120,183
賞与引当金	3,000,359	3,213,651	△213,292
流動負債合計	47,756,103	45,422,361	2,333,742
2. 固定負債			
退職給付引当金	50,795,900	46,838,100	3,957,800
固定負債合計	50,795,900	46,838,100	3,957,800
負債合計	98,552,003	92,260,461	6,291,542
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000,000,000	10,010,000,000	△10,000,000
基本財産運用益	90,000,000	68,000,000	22,000,000
特定資産運用益	632,008,000	552,008,000	80,000,000
特定資産評価差額金等	△104,545,762	△581,063,900	476,518,138
指定正味財産合計	10,617,462,238	10,048,944,100	568,518,138

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)	(868,000,000)	(22,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(9,727,462,238)	(9,180,944,100)	(546,518,138)
2. 一般正味財産	223,696,791	257,112,897	△33,416,106
正味財産合計	10,841,159,029	10,306,056,997	535,102,032
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
負債及び正味財産合計	10,939,711,032	10,398,317,458	541,393,574

# 正味財産増減計算書

平成26年4月1日 から 平成27年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,195,048	324,035	1,871,013
基本財産受取利息	2,195,048	324,035	1,871,013
特定資産運用益	247,641,966	341,710,447	△94,068,481
特定資産受取利息	0	10,658	△10,658
記念基金受取利息	247,641,966	245,579,789	2,062,177
記念基金売却益	0	96,120,000	△96,120,000
受取寄付金	10,000,000	0	10,000,000
受取寄付金	10,000,000	0	10,000,000
有価証券償還益	0	5,286,000	△5,286,000
有価証券償還益	0	5,286,000	△5,286,000
雑収益	23,500	1,261,331	△1,237,831
受取利息	0	761,031	△761,031
雑収益	23,500	500,300	△476,800
経常収益計	259,860,514	348,581,813	△88,721,299
(2) 経常費用			
事業費	219,541,410	240,430,425	△20,889,015
役員報酬	8,274,000	8,337,000	△63,000
給与手当	40,784,644	41,794,238	△1,009,594
法定福利費	6,837,116	6,735,924	101,192
退職給付費用	2,202,910	2,143,349	59,561
賃金	2,611,587	1,255,699	1,355,888
職員厚生費	666,829	672,983	△6,154
会議費	1,621,093	1,450,272	170,821
旅費交通費	7,403,676	7,823,752	△420,076
通信運搬費	2,689,339	2,347,236	342,103
広告費	1,744,416	771,750	972,666
減価償却費	0	5,144	△5,144
消耗什器備品費	278,531	86,108	192,423
消耗品費	2,040,872	2,986,281	△945,409
印刷製本費	3,135,381	2,947,510	187,871
光熱水料費	3,104,154	3,377,663	△273,509
役務費	34,653	490	34,163
委託費	22,913,272	45,836,641	△22,923,369
賃借料	4,633,255	5,336,677	△703,422
使用料	3,436,894	2,870,716	566,178
保険料	159,250	0	159,250
諸謝金	5,458,274	5,155,759	302,515

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
租税公課	299,460	111,573	187,887
支払負担金・会費	47,373,652	48,022,101	△648,449
支払助成金	11,162,000	9,363,000	1,799,000
支払手数料	609,700	845,971	△236,271
顕彰賞金	40,000,000	40,000,000	0
雑費	66,452	152,588	△86,136
管理費	73,735,210	86,550,513	△12,815,303
役員報酬	3,546,000	3,573,000	△27,000
給与手当	34,314,488	37,277,219	△2,962,731
法定福利費	6,552,196	6,770,732	△218,536
退職給付費用	1,754,890	1,945,451	△190,561
賃金	1,119,252	538,157	581,095
職員厚生費	572,169	610,845	△38,676
会議費	694,754	621,546	73,208
旅費交通費	3,173,004	3,353,037	△180,033
通信運搬費	1,152,574	1,005,959	146,615
広告費	747,607	330,750	416,857
減価償却費	0	2,205	△2,205
消耗什器備品費	119,370	36,904	82,466
消耗品費	874,659	1,279,837	△405,178
印刷製本費	1,343,735	1,263,219	80,516
光熱水料費	1,330,352	1,447,570	△117,218
役務費	14,852	210	14,642
委託費	9,819,973	19,644,275	△9,824,302
賃借料	1,985,681	2,287,147	△301,466
使用料	1,472,955	1,230,309	242,646
保険料	68,250	246,460	△178,210
諸謝金	2,339,261	2,209,611	129,650
租税公課	128,340	47,817	80,523
支払負担金・会費	321,070	400,300	△79,230
支払手数料	261,300	362,559	△101,259
雑費	28,478	65,394	△36,916
経常費用計	293,276,620	326,980,938	△33,704,318
当期経常増減額	△33,416,106	21,600,875	△55,016,981
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△33,416,106	21,600,875	△55,016,981
一般正味財産期首残高	257,112,897	235,512,022	21,600,875
一般正味財産期末残高	223,696,791	257,112,897	△33,416,106

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	10,000,000	△10,000,000
受取寄付金	0	10,000,000	△10,000,000
基本財産受取利息	24,195,048	38,324,035	△14,128,987
基本財産受取利息	24,195,048	38,324,035	△14,128,987
特定資産運用益	331,292,011	435,579,789	△104,287,778
記念基金受取利息	331,292,011	435,579,789	△104,287,778
特定資産償還益等	208,556,000	96,120,000	112,436,000
記念基金投資有価証券売却益	4,230,000	96,120,000	△91,890,000
記念基金投資有価証券償還益	204,326,000	0	204,326,000
特定資産評価益	267,962,138	665,305,600	△397,343,462
記念基金投資有価証券評価益	267,962,138	665,305,600	△397,343,462
一般正味財産への振替	△263,487,059	△342,023,824	78,536,765
一般正味財産への振替	△263,487,059	△342,023,824	78,536,765
当期指定正味財産増減額	568,518,138	903,305,600	△334,787,462
指定正味財産期首残高	10,048,944,100	9,145,638,500	903,305,600
指定正味財産期末残高	10,617,462,238	10,048,944,100	568,518,138
III 正味財産期末残高	10,841,159,029	10,306,056,997	535,102,032

# 正味財産増減計算書内訳表

平成26年4月1日 から 平成27年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	658,514	1,536,534	2,195,048
基本財産受取利息	658,514	1,536,534	2,195,048
特定資産運用益	173,349,382	74,292,584	247,641,966
記念基金受取利息	173,349,382	74,292,584	247,641,966
受取寄付金	10,000,000	0	10,000,000
受取寄付金	10,000,000	0	10,000,000
雑収益	23,500	0	23,500
雑収益	23,500	0	23,500
経常収益計	184,031,396	75,829,118	259,860,514
(2) 経常費用			
事業費	219,541,410	0	219,441,410
役員報酬	8,274,000	0	8,274,000
給与手当	40,784,644	0	40,784,644
法定福利費	6,837,116	0	6,837,116
退職給付費用	2,202,910	0	2,202,910
賃金	2,611,587	0	2,611,587
職員厚生費	666,829	0	666,829
会議費	1,621,093	0	1,621,093
旅費交通費	7,403,676	0	7,403,676
通信運搬費	2,689,339	0	2,689,339
広告費	1,744,416	0	1,744,416
消耗什器備品費	278,531	0	278,531
消耗品費	2,040,872	0	2,040,872
印刷製本費	3,135,381	0	3,135,381
光熱水料費	3,104,154	0	3,104,154
役務費	34,653	0	34,653
委託費	22,913,272	0	22,913,272
賃借料	4,633,255	0	4,633,255
使用料	3,436,894	0	3,436,894
保険料	159,250	0	159,250
諸謝金	5,458,274	0	5,458,274
租税公課	299,460	0	299,460
支払負担金・会費	47,373,652	0	47,273,652
支払助成金	11,162,000	0	11,162,000
支払手数料	609,700	0	609,700
顕彰賞金	40,000,000	0	40,000,000
雑費	66,452	0	66,452

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	73,735,210	73,735,210
役員報酬	0	3,546,000	3,546,000
給与手当	0	34,314,488	34,314,488
法定福利費	0	6,552,196	6,552,196
退職給付費用	0	1,754,890	1,754,890
賃金	0	1,119,252	1,119,252
職員厚生費	0	572,169	572,169
会議費	0	694,754	694,754
旅費交通費	0	3,173,004	3,173,004
通信運搬費	0	1,152,574	1,152,574
広告費	0	747,607	747,607
消耗什器備品費	0	119,370	119,370
消耗品費	0	874,659	874,659
印刷製本費	0	1,343,735	1,343,735
光熱水料費	0	1,330,352	1,330,352
役務費	0	14,852	14,852
委託費	0	9,819,973	9,819,973
賃借料	0	1,985,681	1,985,681
使用料	0	1,472,955	1,472,955
保険料	0	68,250	68,250
諸謝金	0	2,339,261	2,339,261
租税公課	0	128,340	128,340
支払負担金・会費	0	321,070	321,070
支払手数料	0	261,300	261,300
雑費	0	28,478	28,478
経常費用計	219,541,410	73,735,210	293,276,620
当期経常増減額	△35,510,014	2,093,908	△33,416,106
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△35,510,014	2,093,908	△33,416,106
一般正味財産期首残高	163,765,337	93,347,560	257,112,897
一般正味財産期末残高	128,255,323	95,441,468	223,696,791
II 指定正味財産増減の部			
基本財産受取利息	7,258,514	16,936,534	24,195,048
基本財産受取利息	7,258,514	16,936,534	24,195,048
特定資産運用益	231,904,413	99,387,598	331,292,011
記念基金受取利息	231,904,413	99,387,598	331,292,011
特定資産償還益等	145,989,200	62,566,800	208,556,000
記念基金投資有価証券売却益	2,961,000	1,269,000	4,230,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
記念基金投資有価証券償還益	143,028,200	61,297,800	204,326,000
特定資産評価益	187,573,497	80,388,641	267,962,138
記念基金投資有価証券評価益	187,573,497	80,388,641	267,962,138
一般正味財産への振替	△186,562,927	△76,924,132	△263,487,059
一般正味財産への振替	△186,562,927	△76,924,132	△263,487,059
当期指定正味財産増減額	386,162,697	182,355,441	568,518,138
指定正味財産期首残高	7,022,060,875	3,026,883,225	10,048,944,100
指定正味財産期末残高	7,408,223,572	3,209,238,666	10,617,462,238
Ⅲ 正味財産期末残高	7,536,478,895	3,304,680,134	10,841,159,029

# 財務諸表に対する注記

## 1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券…償却原価法(定額法)によっている。

②満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券

時価あるもの…期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

その他の固定資産

什器備品…定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、期末要支給額を計上している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

## 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金等	358,344,700	902,000,000	400,000,000	860,344,700
投資有価証券	509,655,300	0	480,000,000	29,655,300
小 計	868,000,000	902,000,000	880,000,000	890,000,000
特定資産				
記念基金	9,170,944,100	12,327,962,138	11,771,444,000	9,727,462,238
退職給付引当資産	46,838,100	3,957,800	0	50,795,900
東北復興支援事業資産	10,000,000	0	10,000,000	0
小 計	9,227,782,200	12,331,919,938	11,781,444,000	9,778,258,138
合 計	10,095,782,200	13,233,919,938	12,661,444,000	10,668,258,138

### 3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金等(注)	860,344,700	(860,344,700)	( 0)	-
投資有価証券	29,655,300	(29,655,300)	( 0)	-
小 計	890,000,000	(890,000,000)	( 0)	( 0)
特定資産				
記念基金(注)	9,727,462,238	(9,727,462,238)	( 0)	( 0)
退職給付引当資産	50,795,900	-	-	(50,795,900)
小 計	9,778,258,138	(9,727,462,238)	( 0)	(50,795,900)
合 計	10,668,258,138	(10,617,462,238)	( 0)	(50,795,900)

(注) 期限前解約時の清算金条項の付された定期預金が基本財産に838,000,000円、  
記念基金に690,000,000円含まれている。

### 4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞顕彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフレシア(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

## 5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第328回利付国債	29,655,300	30,831,960	1,176,660
小 計	29,655,300	30,831,960	1,176,660
特定資産及びその他固定資産			
記念基金及び投資有価証券			
第3回日本電産社債	101,034,841	103,940,000	2,905,159
第8回パナソニック社債	103,956,418	106,790,000	2,833,582
第42回ソフトバンク社債	100,803,073	101,225,900	422,827
第7回ニプロ社債	102,905,115	104,010,000	1,104,885
第20回みずほ銀行劣後債	103,102,091	106,940,000	3,837,909
第41回阪急阪神HD社債	105,056,775	109,450,000	4,393,225
小 計	616,858,313	632,355,900	15,497,587
合 計	646,513,613	663,187,860	16,674,247

## 6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	2,195,048
記念基金受取利息	251,292,011
受取寄付金	10,000,000
合 計	263,487,059

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	3,213,651	3,000,359	3,213,651	0	3,000,359
退職給付引当金	46,838,100	3,957,800	0	0	50,795,900

# 財産目録

平成27年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金預金				
	現金	手元保管	運転資金として	180,128	
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運転資金として	113,557,237	
		三菱東京UFJ銀行大阪公務部	運転資金として	15,399,796	
		三井住友銀行大阪公務部	運転資金として	14,172,149	
		みずほ銀行大阪支店	運転資金として	40,131,572	
		三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運転資金として	105,205	
			現金預金合計	183,546,087	
	未収収益		公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	71,048,486	
流動資産合計				254,594,573	
(固定資産)	基本財産	普通預金	みずほ銀行大阪支店	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	22,000,000
				うち公益目的保有財産である	6,600,000
				うち管理目的の財源として使用する財産である	15,400,000
		定期預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	344,700
				うち公益目的保有財産である	103,410
				うち管理目的の財源として使用する財産である	241,290
	三井住友銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	838,000,000		
		うち公益目的保有財産である	251,400,000		
		うち管理目的の財源として使用する財産である	586,600,000		
			定期預金合計	838,344,700	
	特定資産	投資有価証券	第328回利付国債	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	29,655,300
				うち公益目的保有財産である	8,896,590
				うち管理目的の財源として使用する財産である	20,758,710
				基本財産合計	890,000,000
記念基金		投資有価証券	関西国際空港20年債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	9,727,462,238
				うち公益目的保有財産である。	4,761,685,067
	うち管理目的の財源として使用する財産である。			2,040,722,171	
		第8回パナソニック社債他	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	600,000,000	
			うち公益目的保有財産である。	420,000,000	

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定 資産	定期預金	三井住友銀行大阪公務部	うち管理目的の財源として使用する財産である。	180,000,000
			運用益を公益目的の事業及び管理目的の財源として使用している。	690,000,000
	普通預金	みずほ銀行大阪支店	うち公益目的保有財産である。	483,000,000
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	207,000,000
			運用益を公益目的の事業及び管理目的の財源として使用している。	1,635,055,000
			うち公益目的保有財産である。	1,144,538,500
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	490,516,500
			退職給付引当資産	りそな銀行大阪公務部 普通預金
	特定資産合計			9,778,258,138
	投資有価証券	第8回パナソニック社債他 (オーバーパー部分)	公益目的の事業及び管理目的の財源として使用している。	16,858,313
うち公益目的保有財産である。			11,800,819	
うち管理目的の財源として使用する財産である。			5,057,494	
什器備品	花博会場模型等	公益目的の事業及び管理目的の財源として使用している。	8	
固定資産合計				10,685,116,459
資産合計				10,939,711,032
(流動負債)	未払金	平成26年度助成事業対象者に対する未払額等	公益目的の事業及び管理目的の業務等未払い分	44,159,245
	預り金	役職員に対するもの	源泉徴収税等	596,499
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的の事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	3,000,359
流動負債合計				47,756,103
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの	職員6名に対する退職金の支払いに備えたもの	50,795,900
固定負債合計				50,795,900
負債合計				98,552,003
正味財産				10,841,159,029

平成 26 年度

## IV. 監 査 報 告 書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

# 監査報告書

平成27年 6 月 1 日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

会長 今 井 敬 様

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

北山 諒一

北山 諒一

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

堀井 良 殷

堀井 良 殷

私たち監事は、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監事の実務環境整備に努めるとともに、理事会その他必要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属書類並びに財産目録について検討いたしました。

## 2. 監査意見

### (1) 事業報告等の監査結果

一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。